

4 交際相手からの被害経験

(1) 10歳代から20歳代の頃の交際相手の有無

10歳代から20歳代の頃に、交際相手がいたかどうかを聞いたところ（図4-1-1）、「交際相手がいた（いる）」という人は55.7%となっている。

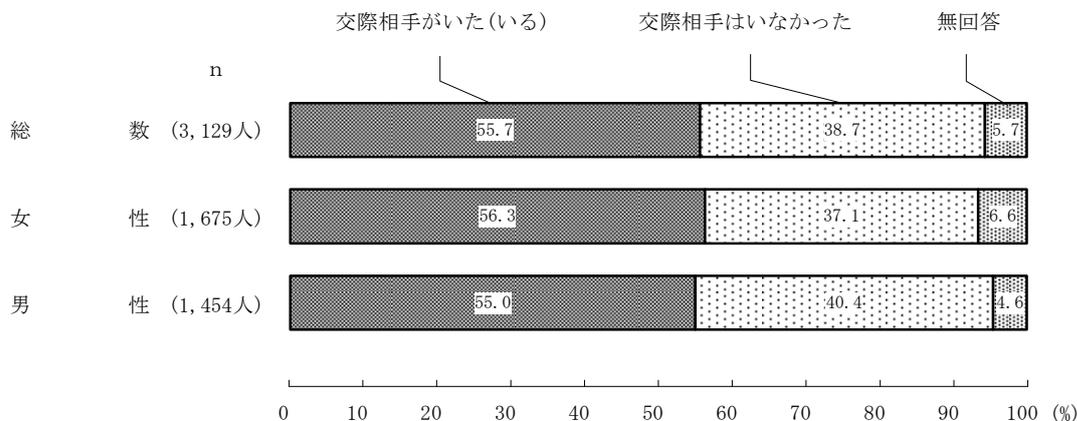
男女別にみて、大きな差はみられない（図4-1-1）。

【すべての方にお聞きします。】

問15 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。

あなたには、その当時、交際相手がありましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。（○は1つ）

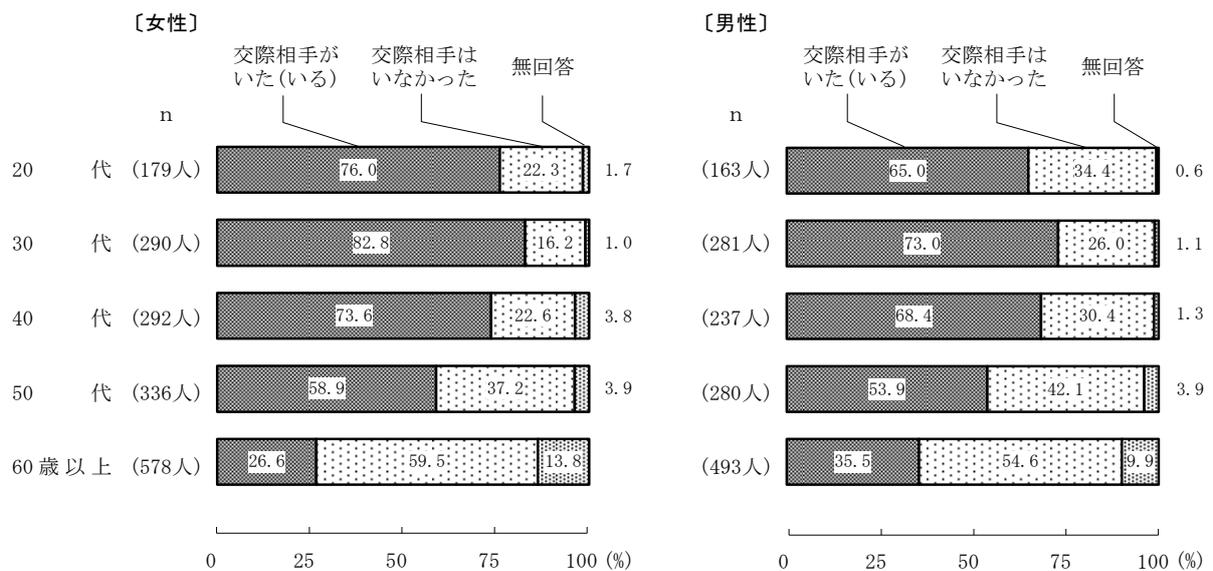
図4-1-1 10歳代から20歳代の頃の交際相手の有無



性・年齢別にみると（図4-1-2）、男女とも若年層ほど「交際相手がいた（いる）」という人が多くなる傾向にあり、男女とも30代（女性82.8%、男性73.0%）が最も多くなっている。

一方、男女とも60歳以上になると、「交際相手はいなかった」（女性59.5%、男性54.6%）という人が過半数を超えている。

図4-1-2 10歳代から20歳代の頃の交際相手の有無（性・年齢別）



(2) 交際相手からの被害経験

10歳代から20歳代の頃に、「交際相手がいいた（いる）」という人（1,742人）に、3つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかを聞いた（図4-2-1）。

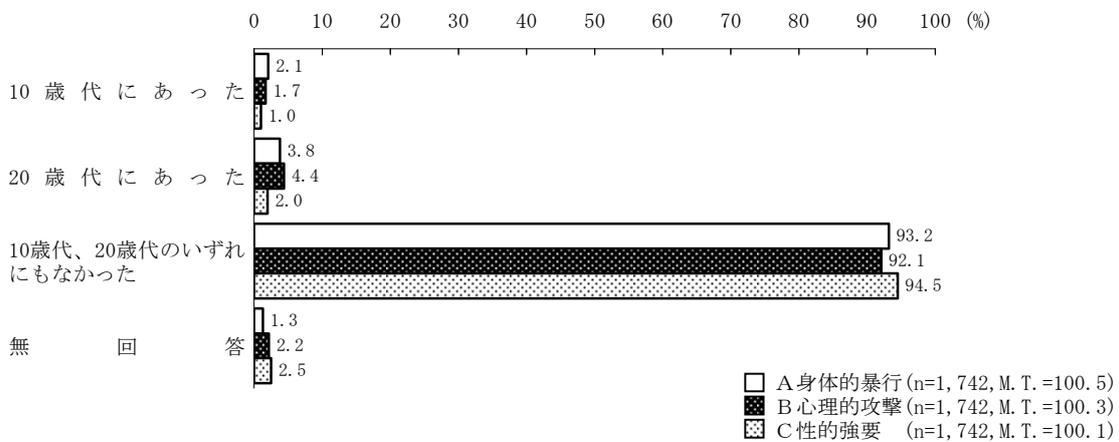
“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが「10歳代にあった」という人は2.1%、「20歳代にあった」という人は3.8%となっている。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「10歳代にあった」という人は1.7%、「20歳代にあった」という人は4.4%となっている。

“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが「10歳代にあった」という人は1.0%、「20歳代にあった」という人は2.0%となっている。

【問15で「1 交際相手がいいた（いる）」と答えた方にお聞きします。】
 問16 あなたは、10歳代、20歳代に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
 AからCのそれぞれについて、あてはまる番号にすべて○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-2-1 交際相手からの被害経験

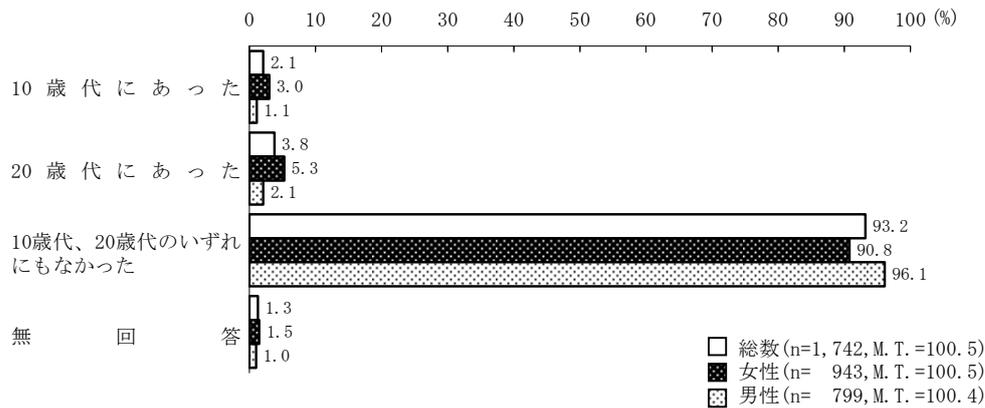


- A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- C いやがっているのに性的な行為を強要された

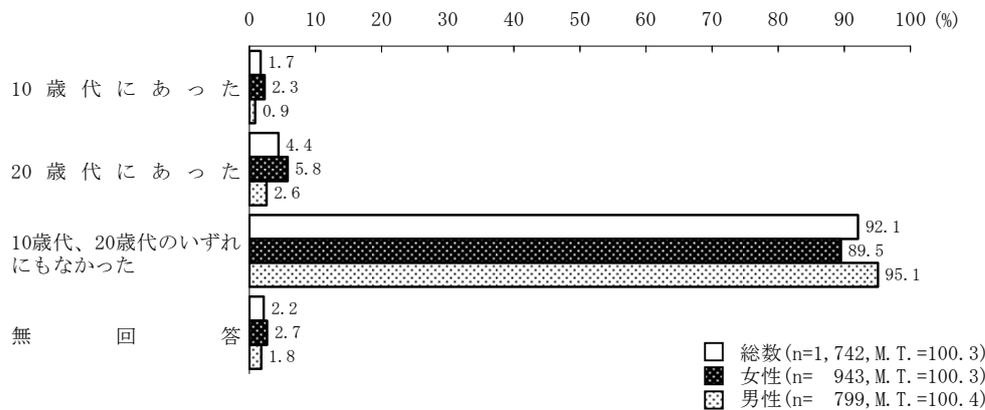
交際相手からの被害経験を男女別にみると（図 4-2-2）、いずれの行為についても男性より女性の方が被害経験のある人がやや多くなっているが、大きな差はみられない。

図 4-2-2 交際相手からの被害経験（男女別）

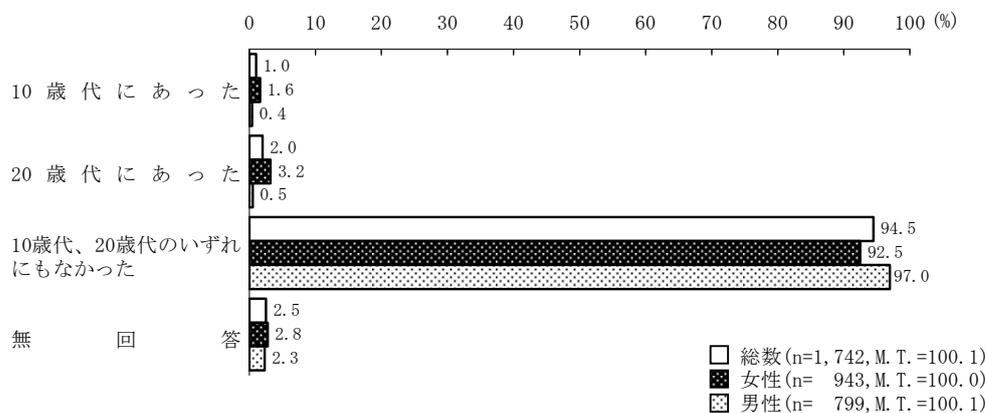
A 身体に対する暴行を受けた



B 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた



C 性的な行為を強要された



交際相手からの被害経験を性・年齢別にみると（図 4-2-3）、「身体に対する暴行を受けた」経験は、女性の 30 代で「20 歳代にあった」（9.2%）という人が、1 割弱とやや多くなっている。

“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”経験は、女性の 20 代から 30 代で「20 歳代にあった」（20 代 9.6%、30 代 9.2%）という人が、1 割弱とやや多くなっている。

“性的な行為を強要された”経験は、女性の 30 代から 40 代で「20 歳代にあった」（30 代 4.2%、40 代 5.6%）という人が、やや多くなっている。

図 4-2-3 交際相手からの被害経験（性・年齢別）

A 身体に対する暴行を受けた

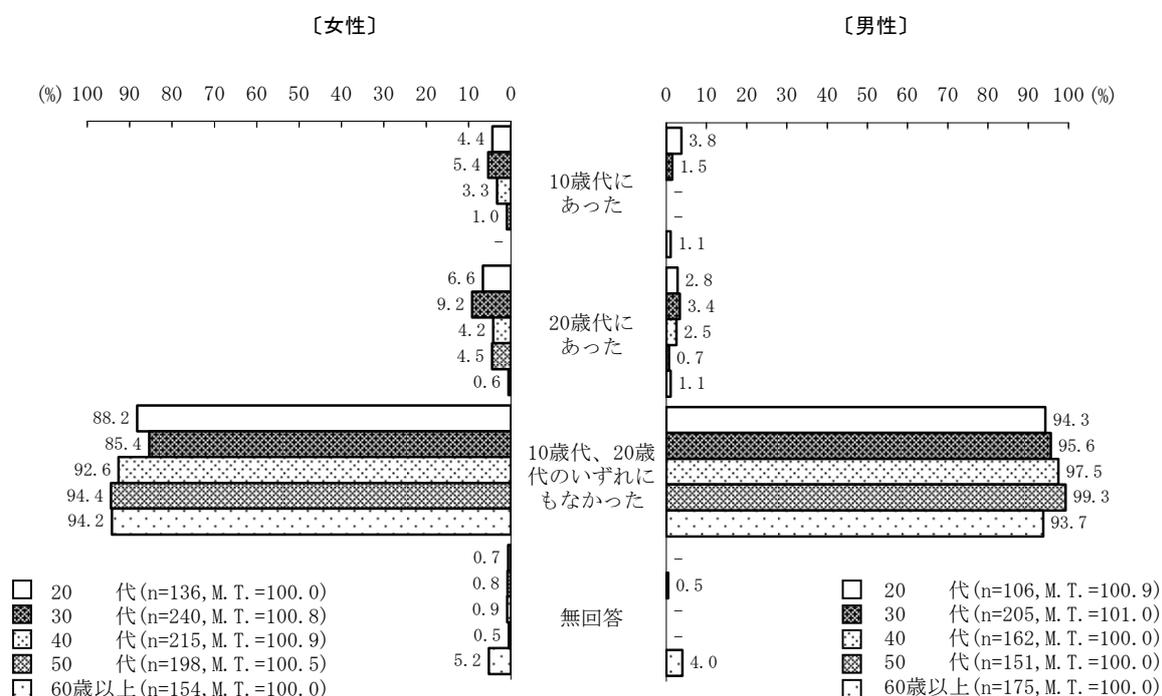
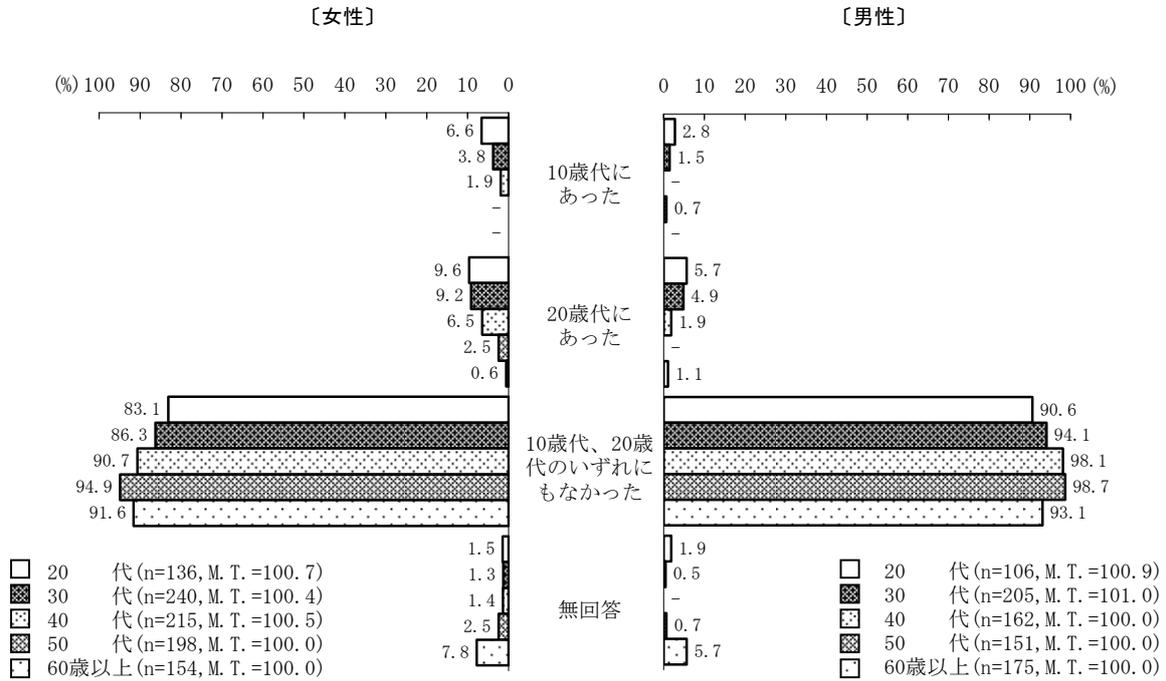
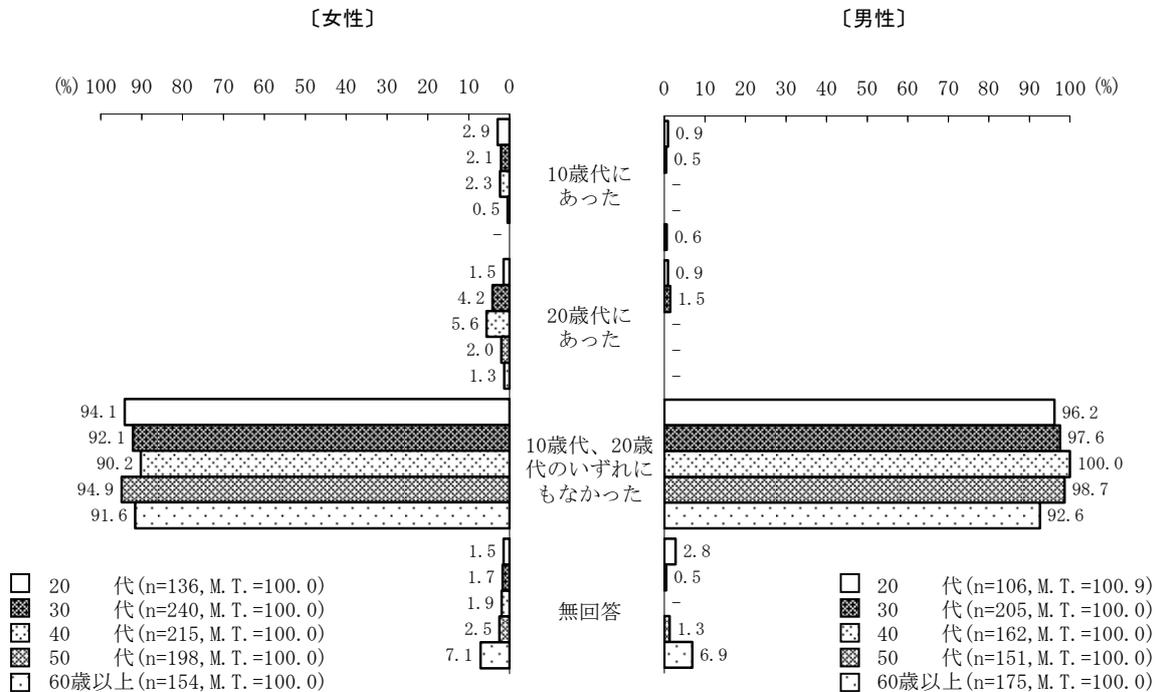


図 4-2-3・つづき

B 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた

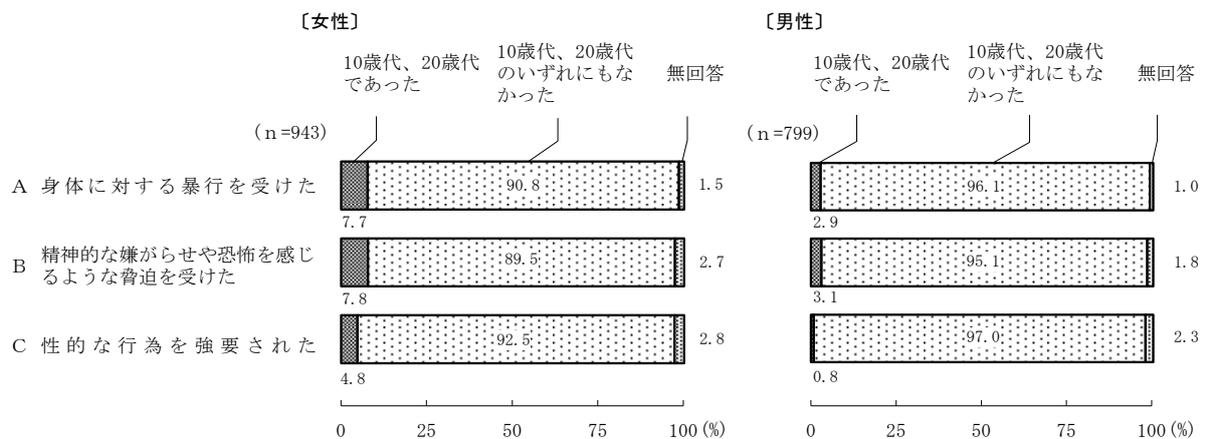


C 性的な行為を強要された



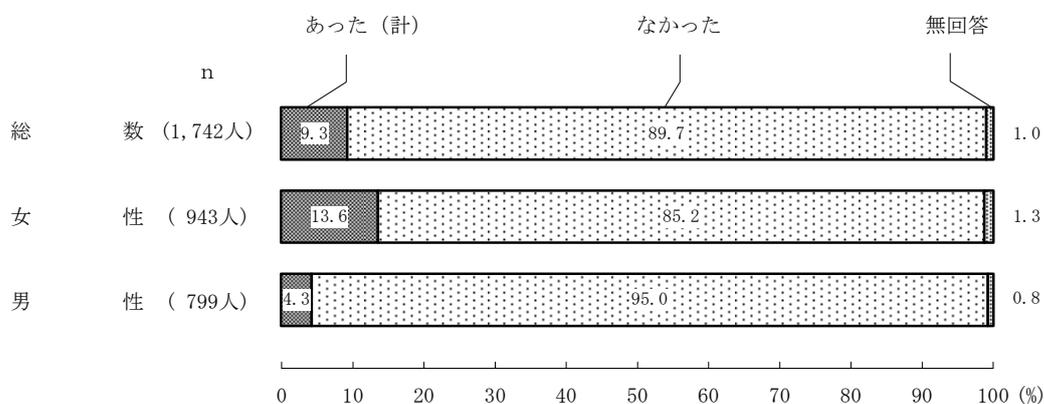
交際相手からの被害経験の有無をみると（図 4-2-4），“身体に対する暴行を受けた”ことが、『10歳代、20歳代であった』という人は女性 7.7%、男性 2.9%、“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが、『10歳代、20歳代であった』という人は女性 7.8%、男性 3.1%、“性的な行為を強要された”ことが、『10歳代、20歳代であった』という人は女性 4.8%、男性 0.8%となっており、いずれも女性に多くなっている。

図 4-2-4 交際相手からの被害経験（男女別）



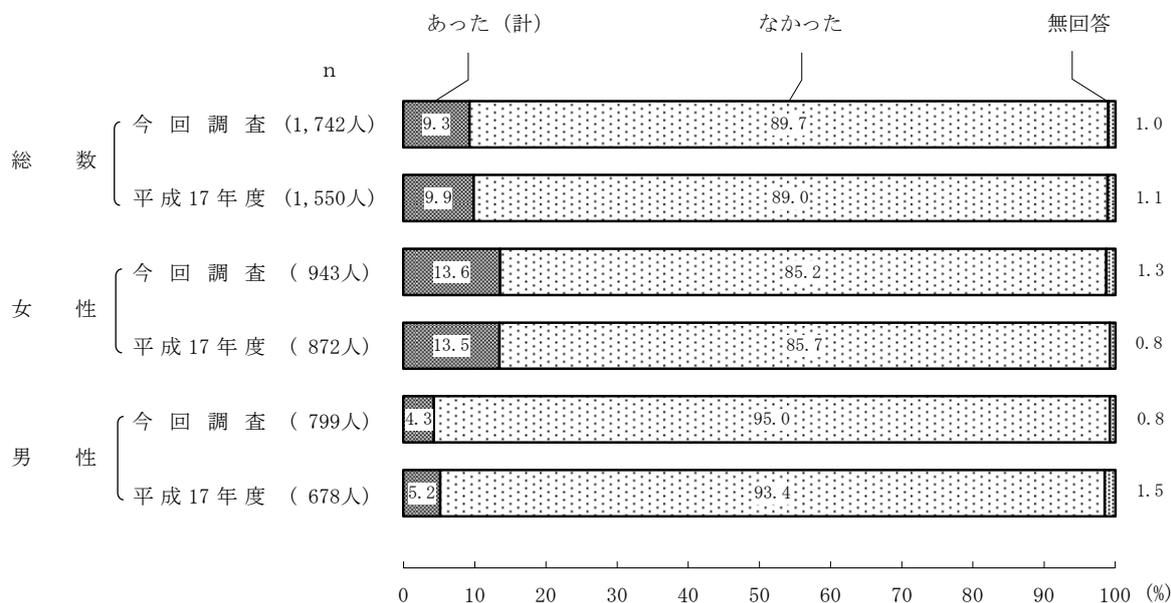
交際相手からの被害経験の有無をまとめてみると（図 4-2-5）、当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかをされたことが『あった』(9.3%)という人は1割で、女性(13.6%)が男性(4.3%)を9ポイントほど上回っている。

図 4-2-5 交際相手からの被害経験 - まとめ（男女別）



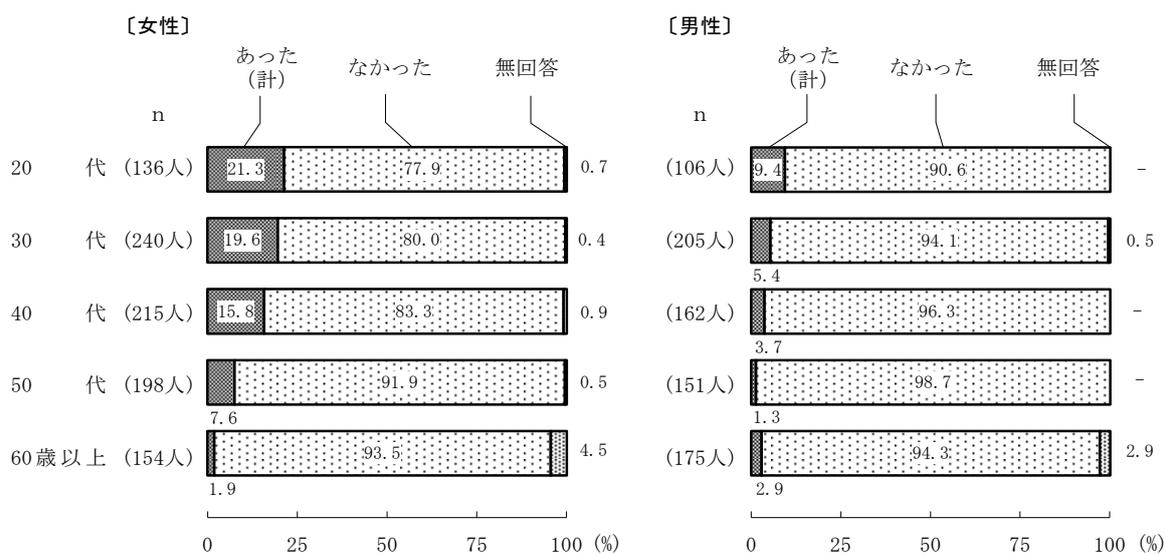
平成 17 年度調査と比較すると（図 4-2-6）、交際相手からの被害経験に大きな変化はみられない。

図 4-2-6 交際相手からの被害経験 — まとめ（男女別／時系列）



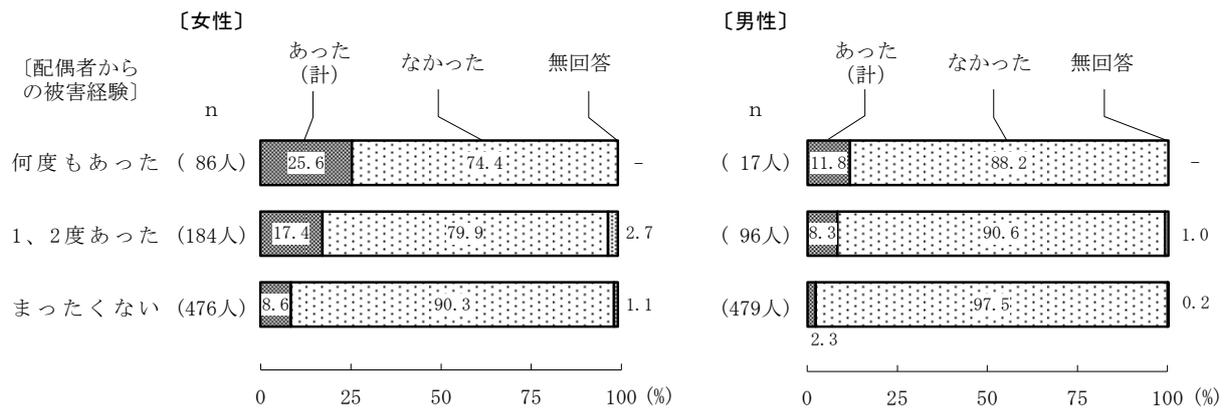
さらに、交際相手からの被害経験の有無を性・年齢別にみると（図 4-2-7）、男女とも若年齢層ほど被害経験のある人が多い傾向にあるが、特に女性の 20 代（21.3%）から 30 代（19.6%）では約 2 割が『あった』と回答している。

図 4-2-7 交際相手からの被害経験 — まとめ（性・年齢別）



交際相手からの被害経験の有無を、性・配偶者からの被害経験（まとめ）別にみると（図4-2-8）、女性では、配偶者からの被害（身体的暴行・心理的攻撃・性的強要）を1つでも受けたことが「何度もあった」という人で、4人に1人が過去に交際相手からの被害経験も『あった』と答えている。また、配偶者からの被害経験が「まったくない」という女性でも、約1割が過去に交際相手からの被害経験が『あった』と回答している。

図4-2-8 交際相手からの被害経験 — まとめ（性・配偶者からの被害経験別）



(3) 交際相手から被害を受けたときの行動

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害を受けたことがある人(162人)に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ(図4-3)、「相手と別れた」(46.9%)という人がほぼ半数を占めている。

「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」(34.0%)という人は3割強、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」(18.5%)という人は2割弱となっている。

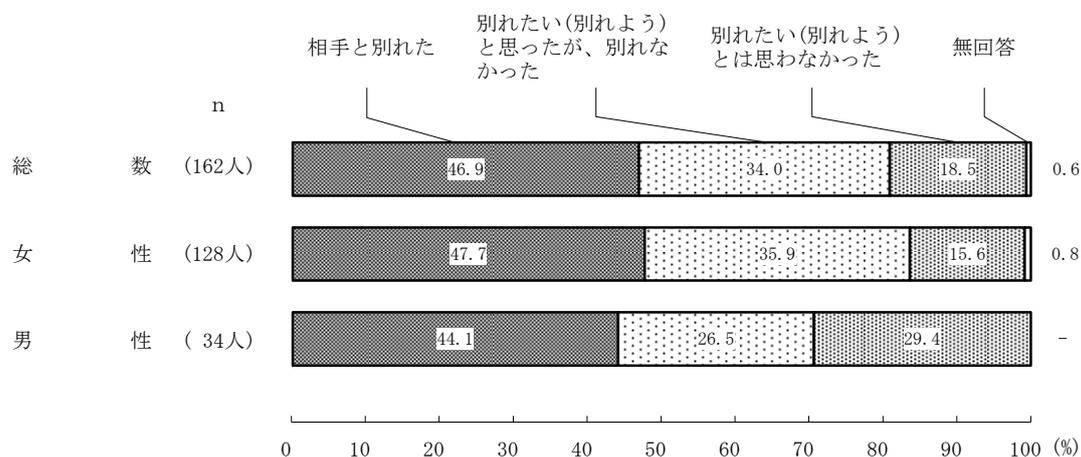
男女別にみると(図4-3)、女性では「相手と別れた」(47.7%)という人がほぼ半数を占め、次いで「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」(35.9%)という人が多くなっている。一方、該当数は少ないが、男性では「相手と別れた」という人が15人、次いで、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」という人が10人、「別れたいと思ったが、別れなかった」という人が9人、となっている。

【問16でAからCのうち1つでも、「1 10歳代にあった」「2 20歳代にあった」と答えた方にお聞きします。

AからCのすべてが、「3 まったくない」という方は9ページの間25にお進みください。】

問17 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図4-3 交際相手から被害を受けたときの行動



(4) 交際相手と別れなかった理由

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」という人（55人）に別れなかった理由を聞いたところ（表4-4）、「相手の反応が怖かったから」、「相手には自分が必要だと思ったから」という人がそれぞれ10人、次いで「これ以上は繰り返されないと考えたから」という人が9人、「相手が別れることに同意しなかったから」という人が8人、などとなっている。

【問17で「2 別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。】
 問18 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。
 あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

表4-4 交際相手と別れなかった理由

(人)

	n	相手の反応が怖かったから	相手には自分が必要だと思ったから	これ以上は繰り返されないと考えたから	相手が別れることに同意しなかったから	世間体を気にしたから	経済的な不安があったから	周囲の人から、別れることに反対されたから	その他	無回答
【総数】	55	10	10	9	8	4	1	1	11	1
女性	46	10	7	8	7	3	1	1	8	1
男性	9	-	3	1	1	1	-	-	3	-

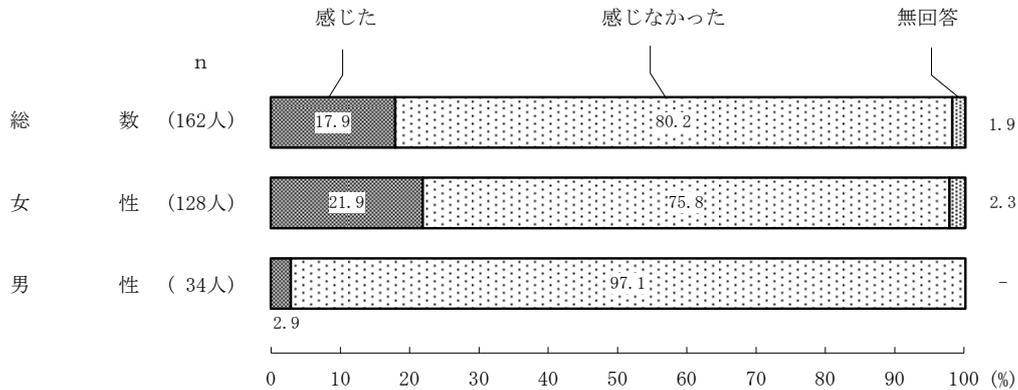
(5) 命の危険を感じた経験

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人(162人)に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ(図4-5-1)、「感じた」(17.9%)という人が2割弱となっている。

男女別にみると(図4-5-1)、命の危険を「感じた」という人は女性で21.9%となっている。一方、該当数は少ないが、男性は34人中1人いる。

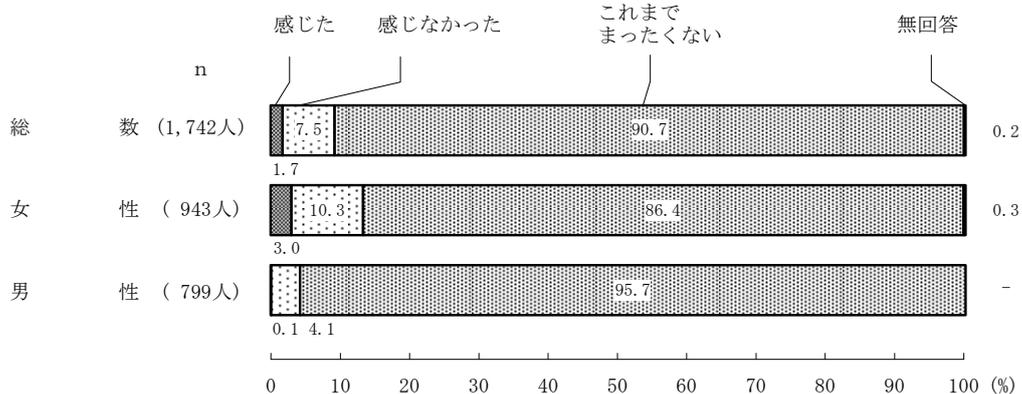
【交際相手から、問16のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
 問19 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。
 あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図4-5-1 命の危険を感じた経験



今までに被害を受けたことのない人も含めて、10歳代から20歳代の頃に、「交際相手がいた(いる)」人全体(1,742人)でみると(図4-5-2)、命の危険を「感じた」という人は1.7%で、女性は3.0%、男性は0.1%となっている。

図4-5-2 命の危険を感じた経験(全体ベース)



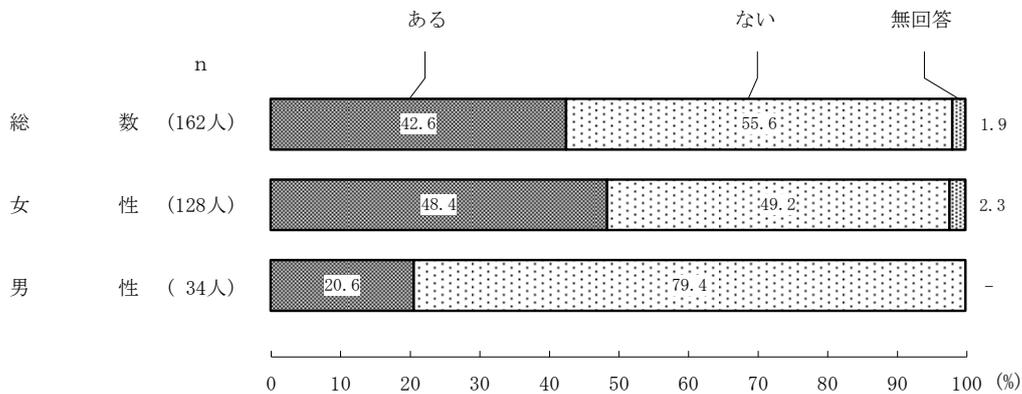
(6) 怪我や精神的不調

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（162人）に、その行為によって、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことがあるか聞いたところ（図4-6-1）、「ある」（42.6%）という人が4割強となっている。

男女別にみると（図4-6-1）、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」と女性の48.4%が回答しているのに対して、該当数は少ないが、男性では34人中7人となっており、女性の方がかなり多くなっている。

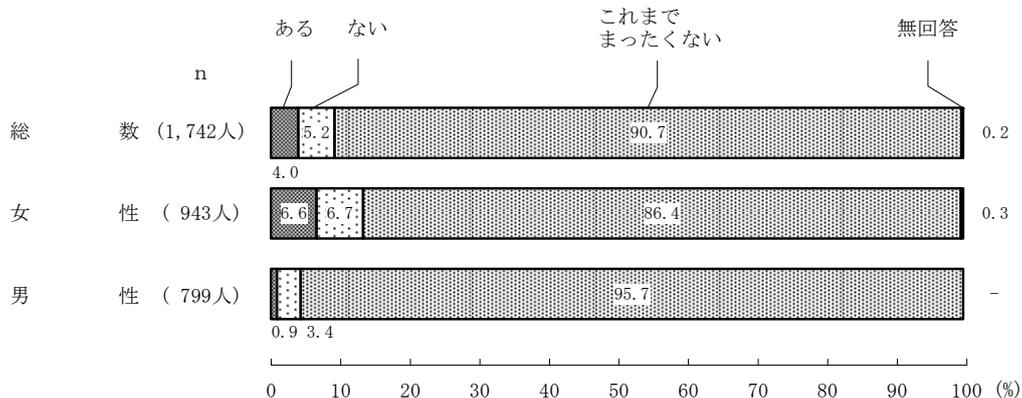
問20 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-6-1 怪我や精神的不調



今までに被害を受けたことのない人も含めて、10歳代から20歳代の頃に、「交際相手がいた（いる）」人全体（1,742人）でみると（図4-6-2）、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」という人は4.0%で、女性は6.6%、男性は0.9%となっている。

図4-6-2 怪我や精神的不調（全体ベース）



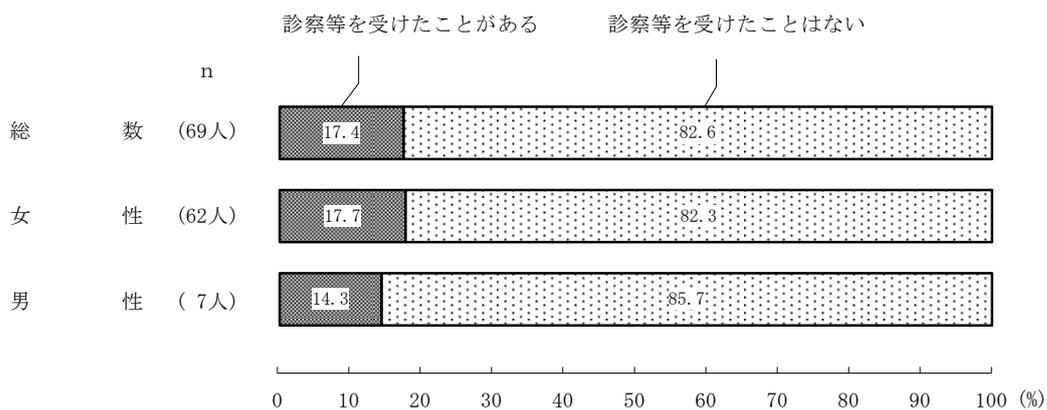
(7) 医師の診察等

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から受けた行為によって、怪我をしたり、精神的に不調をきたしたことが「ある」という人(69人)に、医師の診察等を受けたことがあるかを聞いたところ(図4-7-1)、「診察等を受けたことがある」(17.4%)という人が2割弱となっている。

男女別にみても(図4-7-1)、大きな差はみられない。

【問20で「1 ある」と答えた方にお聞きします。】
問21 あなたは、そのような行為による怪我や精神的不調について、医師の診察等を受けたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図4-7-1 医師の診察等



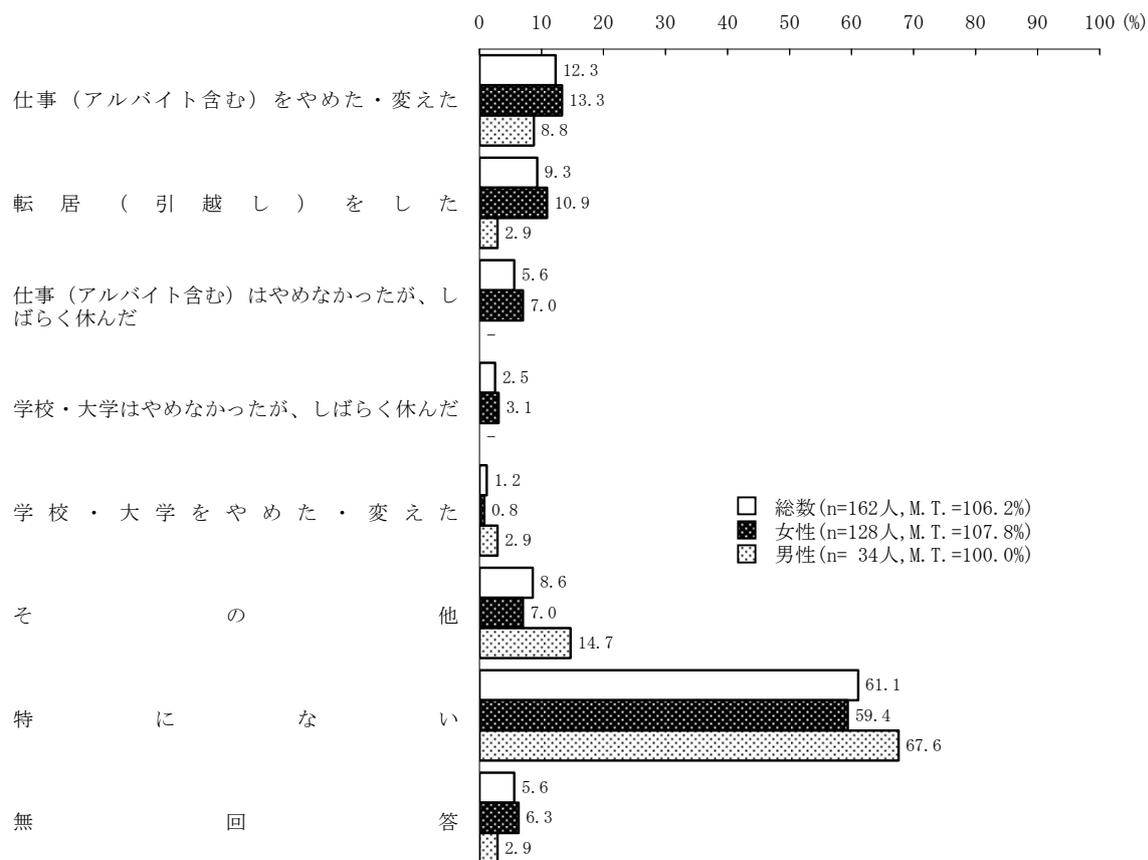
(8) 生活上の変化

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（162人）に、その行為によって、生活上の変化があったかどうかを聞いたところ（図4-8）、「仕事（アルバイト含む）をやめた・変えた」（12.3%）という人が1割強で、次いで「転居（引越し）をした」（9.3%）、などとなっている。

男女別にみると（図4-8）、女性は「仕事（アルバイト含む）をやめた・変えた」（13.3%）、「転居（引越し）をした」（10.9%）という人がそれぞれ約1割となっており、生活上の変化を受けることが多い。

【交際相手から、問16のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
 問22 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-8 生活上の変化



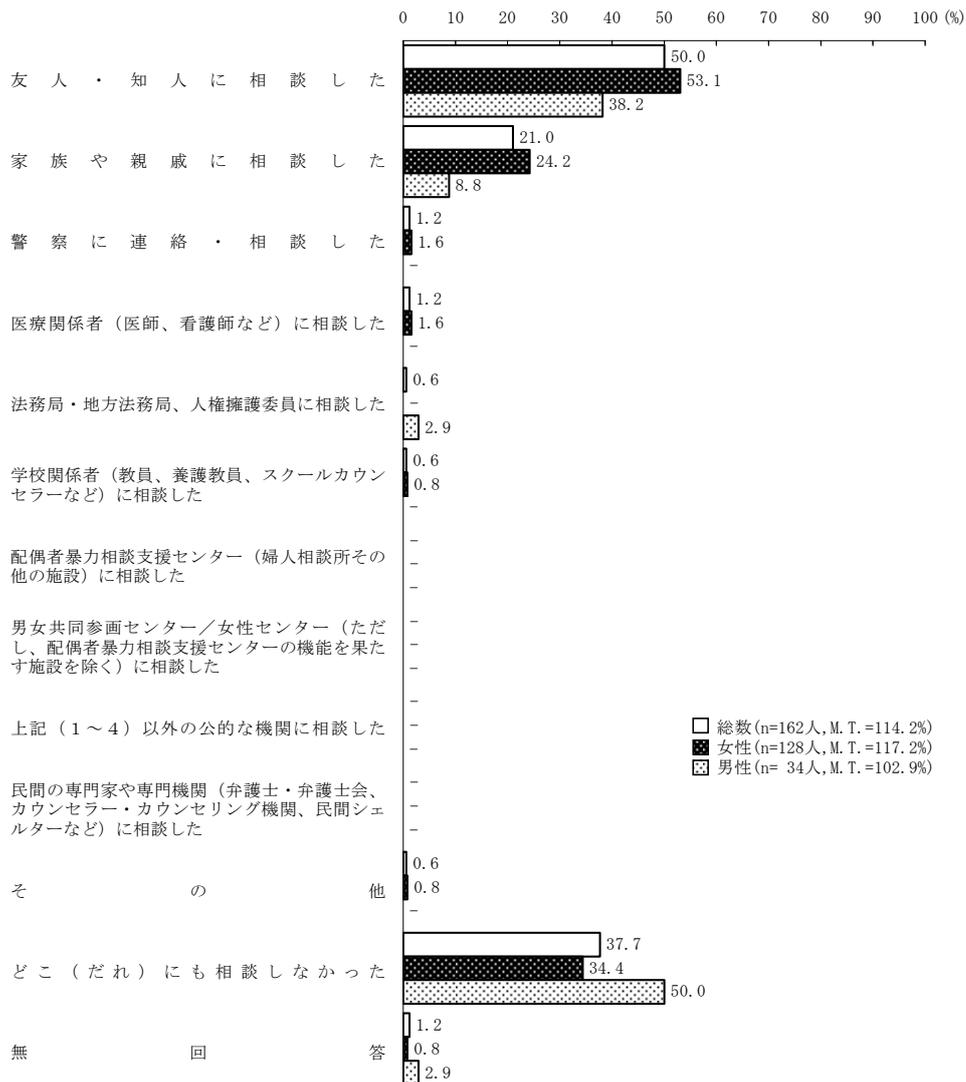
(9) 交際相手からの被害の相談先

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害を受けたことがある人(162人)に、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞いたところ(図4-9)、「友人・知人に相談した」が50.0%と最も多くあげられ、次いで「家族や親戚に相談した」が21.0%となっており、そのほかは、いずれも1%ほどとなっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(37.7%)という人は、4割弱となっている。

男女別にみると(図4-9)、交際相手から被害を受けた女性の過半数は、「友人・知人に相談した」(53.1%)と答えている。また、「どこ(だれ)にも相談しなかった」という女性は34.4%で、6割以上の女性は交際相手からの被害について相談している。

【交際相手から、問16のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
 問23 あなたは、10歳代、20歳代に交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図4-9 交際相手からの被害の相談先



(10) 相談しなかった理由

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から受けた被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（61人）に、相談しなかった理由を聞いたところ（表4-10）、「相談するほどのことではないと思ったから」をあげた人が25人と最も多く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」が20人、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」が19人、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が17人、などとなっている。

【問23で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】
 問24 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

表4-10 相談しなかった理由

	n	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	そのことについて思い出さなかったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	世間体が悪いから	他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなるといったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受けるといったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	その他	回答計
【総数】	61	25	20	19	17	12	10	9	8	7	6	6	4	3	-	1	147
女性	44	13	12	16	15	9	8	5	7	6	6	6	3	3	-	1	110
男性	17	12	8	3	2	3	2	4	1	1	-	-	1	-	-	-	37